見下し。さて面白いことです。ついては、友だちも
のよしに、僕をつれて、空中の遊をさせてくれ。
現代それは目の考は、まことに無理のことである。な
せねば僕等は、猿があるから、飛ぶことは、自由自
在だければ、君は、長く水中に住してから、迎え
空中の見物は、六つかい。これはみない、それくの
生れつきだから、あきらめへ。と、とめをしたが、
なかへかないものをですから、鶴はしかたがないに、
親にうながしおげた、そこで、鵤にくくへさせて、二羽の鶴
は棒の雨はしにくくへ、鶴にどんな事があっても、け
つして口をあいては、ならさいと注意して、空中高く
をながめて見やした。そのうち程なく、或る町の皆さん
へのきだしたとき子供がおさされ、あそでどうも
した。すると、一人の子供が、此のありさまを見付ける
と他の者達でさぎだして、まる口をいじてはやして

家
庭

子母里そだん

にしのふはち

人類の有らず限り、無くてならぬ良妻賢母である

十九
人間の妻る資格を欠くものといふわけにはいきません。